

## 認定動物看護師教育カリキュラムにおける野生動物学の教育概要と課題－応用動物看護学の最新教科書を題材に

浅川満彦（酪農学園大学獣医学群）

### ■はじめに

2019年6月、愛玩動物看護師法が制定され、動物看護師も獣医師同様、国家資格化した。そのため、日本動物保健看護系大学協会が中心となって、コアカリ制定が急がれ（例：野生動物学では表1）、それを基に教科書が続々と上梓されている。野生動物学は他の科目群と共に（図1）、そのような教科書の1つ（日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会、2019）に記載されていた。この目標は「日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物について学ぶ」とあるので、本学会員にとっても大いに関心を抱くことであろう。そこで、この教科書概要を紹介しつつ、獣医学コアカリ野生動物学の内容（浅川、2019）と比較し、今後の課題を簡単に探った。

### ■章構成とその概要の特色

コアカリ野生動物学は日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会（2019）の511頁から555頁に記され、次の4つの章で構成されていた；野生動物の種類と特徴、野生動物の保全、動物看護師と野生動物、野生動物の福祉。まず、種類と特徴の章では日本に生息する野生哺乳類と鳥類の特徴を学ぶものであった。もちろん、すべての種を扱うものではなく、「一般の人々でもすぐイメージがわく動物」が選定され（後述）、哺乳類では陸棲の35種が（表2）、また、鳥類では「野山にいるもの」27種、

「水辺にいるもの」18種が一覧表に列挙されていた。さらに、本論では選定動物種からよりのを絞り、「農林業・農作物と関りが深い哺乳類」、「人家や公園などに多く生息する哺乳類」、「山間部に生息して人間とあまり関わらない哺乳類」、「近所の公園や街路樹でよくみかける鳥」、「池や川の近くでみる機会が多い鳥」、「森林公園や山間部などでみる機会が多い鳥」および「近年問題になっている外来種」という項のもと、簡潔な記述が展開していた。なお、海産哺乳類や両生・爬虫類は、「動物看護領域の対象になることはあまりない」として割愛されていた〔註：爬虫類医学に関しては同教科書・伴侶動物学（275頁～282頁）でカメ類に



図1 動物看護学コアカリ野生動物学が記載された日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会編集の教科書表紙

表1 動物看護学コアカリ野生動物学ガイドライン (到達目標)

- |  |  |
|--|--|
| <p>1. 野生動物学の基礎</p> <p>1) 生物多様性の概念を理解する</p> <p>2) 野生動物の保全の意義を理解する</p> <p>3) 野生動物による鳥獣害の現状を理解する</p> <p>4) 飼育下繁殖および動物園などの役割を理解する</p> <p>2. 野生動物の分類と生物多様性</p> <p>1) 動物分類の方法について理解する</p> <p>2) 日本在来の動物の生態および生息環境を理解する</p> <p>3) 種の多様性、遺伝子の多様性、および生態系の多様性を理解する</p> <p>4) 生物多様性条約および国家戦略を理解する</p> <p>3. 絶滅危惧種の保全</p> <p>1) 絶滅危惧種の定義および含まれる動物(レッドリストなど)を理解する</p> | <p>2) 絶滅危惧種となる原因を理解する</p> <p>3) 絶滅危惧種の保全方法について理解する</p> <p>4. 動物園</p> <p>1) 展示動物の意義と動物園の役割について理解する</p> <p>2) 動物園の個体群管理について理解する</p> <p>3) 動物園の行動管理について理解する</p> <p>4) 動物園の施設管理について理解する</p> <p>5. 外来生物</p> <p>1) 外来種の定義および含まれる動物を理解する</p> <p>2) 外来生物が在来生態系に及ぼす影響を理解する</p> <p>3) 外来生物への対策について理解する</p> |
|--|--|

註：全国動物保健看護系大学協会と専修学校の一般社団法人全国動物教育協会が共同して結成した一般財団法人動物看護師統一認定機構が、2019年3月11日に公表した「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019」ガイドラインから抜粋して作成した。著者の酪農学園大学獣医学類から同大学獣医保健看護学類出向中(2017年度～2019年度)、本リストが送付された。2020年4月現在、この出向は解かれ、獣医学類に戻ったが、獣医保健看護学類の野生動物学担当は継続。

絞って言及]。

続いて、保全に関する章では、自然生態系との関連性、関連法規、調査手法、生息環境、農林業被害、人身事故・住民被害、動物園・水族館における保全活動、人間側の課題などが説明されていた。これらは獣医学コアカリと重複するものの(浅川, 2019)、より簡潔な記載が目を引いた。

本科目の肝となる動物看護師との関りを論じた章では、傷病野生動物の救護活動についてのみ言及され、本活動の理念、困難性、東京都と神奈川県における体制、対象種内訳(鳥類が大部分であること)とその疾病・事故が列挙されていた。実は、救護活動については獣医学コアカリでも扱われているが(浅川, 2019)、アドバンス指定(註：余裕があれば教えるが、共用試験や国家試験では課されない内容)なので、大学によっては教えない場合もある。たとえ、教授されたとしても、多くの学生は試験範囲外という気持ちで受講をすることになるので、記憶に残らないであろう。もちろん、本学会に所属する学生諸君は熱心に受講するであろうが。

最終章となる福祉では、「狩猟」、「希少動物やエキゾチックペットの商業取引」、「毛皮の商業取引」および「有害鳥獣や外来動物の駆除」の項目に加え、動物愛護・福祉に関する団体(IUCN, WWF, IFAW, RSPCA)と日本野生動物医学会が紹介されていた。

前半の狩猟や有害種・外来種駆除も獣医コアカリ対象であるが、商取引や関連団体の紹介はほぼ割愛されているので、このような団体に研修・就業希望学生にとってはとても有益な資料となろう。

### ■動物看護師にとって身近な動物種とは

以上のように、同じ野生動物学と称しながら、獣医学と動物看護学とでは、若干、力点が異なることが判った。おそらく、動物看護学コアカリ野生動物学設定が市井の動物病院で実際に対処を迫られる事案を想定して組まれているからであろう。このことは、たとえば「一般の人々でもすぐイメージがわく」身近な鳥獣計約80種(前述)が如実に表されている。この種数は野生動物に興味を持たない一般の学部生にとっても、記憶するためにそれ程大きな負担を与えない絶妙な値であるし(少なくとも100を超えるとキツイのでは?)、提示種自体も慎重に選択されたものである。獣医学におけるコアカリ野生動物ではこういった種のリストは無く、「taxa by taxa 式情報収集と記憶定着」は独習しかない(浅川, 2019)。しかしながら、日本で記録された鳥獣だけでも700種を超え、これに優先順位を付すことすら至難の業である。もちろん、本学会学生部会の諸君ならば別であろうが。あらためて想像するに、獣医学コアカリ野生動物学の内容は、元来、「動物好き」学生であった専門家が策定しているもので、そういった枚挙的

表2 動物看護学コアカリで「一般の人々でもすぐイメージがわく」とされた日本産哺乳類の種と分布

<p>兎形目</p> <p>ユキウサギ…北海道に分布</p> <p>ノウサギ…北海道以外（南西諸島は除く。以下、同様）に分布（日本固有種）</p> <p>齧歯目</p> <p>ニホンリス…北海道以外に分布（日本固有種）</p> <p>タイワンリス（クリハラリス）…外来種</p> <p>シマリス…北海道に分布（外来性の亜種も生息）</p> <p>タイリクモモンガ…北海道に分布</p> <p>ホンドモモンガ…北海道以外に分布（日本固有種）</p> <p>ムササビ…北海道以外に分布（日本固有種）</p> <p>ハタネズミ…北海道と四国以外に分布（日本固有種）</p> <p>ヤチネズミ…北海道産ヤチネズミ類と本州・四国・九州産ヤチネズミ類（後者は日本固有種）</p> <p>アカネズミ…北海道・本州・四国・九州に分布（日本固有種）</p> <p>ヤマネ…北海道以外（南西諸島は除く。以下、同様）に分布（日本固有種）</p> <p>トガリネズミ形目</p> <p>ヒミズ…北海道以外に分布（日本固有種）</p> <p>食肉目</p> <p>ハクビシン…外来種</p> <p>イリオモテヤマネコ（ベンガルヤマネコの亜種）…西表島に分布</p> <p>ツシマヤマネコ（ベンガルヤマネコの亜種）…対馬に分布</p>	<p>食肉目</p> <p>タヌキ…北海道・本州・四国・九州に分布</p> <p>キツネ…北海道・本州・四国・九州に分布</p> <p>ヒグマ…北海道に分布</p> <p>ツキノワグマ…北海道以外に分布</p> <p>アライグマ…外来種</p> <p>クロテン…北海道に分布</p> <p>テン…北海道以外に分布（北海道で国内外来種）</p> <p>イタチ…北海道以外に分布（北海道で国内外来種）</p> <p>チョウセンイタチ（シベリアイタチ、タイリクイタチ）…外来種</p> <p>イイズナ…北海道と本州最北部に分布</p> <p>オコジョ…北海道と本州に分布</p> <p>アナグマ…北海道以外に分布（日本固有種）</p> <p>霊長目</p> <p>ニホンザル…北海道以外に分布（日本固有種）</p> <p>タイワンザル…外来種</p> <p>偶蹄目</p> <p>イノシシ…北海道以外に分布</p> <p>ニホンジカ…日本全域と沿海州の一部に分布</p> <p>エゾシカ（ニホンジカのうち、北海道に分布する亜種）</p> <p>ニホンカモシカ…北海道以外に分布（日本固有種）</p> <p>キョン…外来種</p>
---	---

註：日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会，2019）に記載されていた「表 5-1-1」の種（一部，亜種）群に分布情報などを追記，配列を改変するなどして作成した。また，目の名称・配列は日本哺乳類学会種名・標本検討委員会（2003）に準拠。

な種は獣医学徒ならが知っていて当然と考えているのかもしれない。それはともかく，もし，不安を憶えた獣医学徒がいらしたら，このような提案を参考にしてはどうだろうか。

話を戻そう。まず，ここで紹介された種（特に，鳥類は動物病院に持ち込まれる可能性が高い）の識別能力を涵養し，各々の生態や諸問題を押さえれば，認定愛玩動物看護師として社会的信頼を得られる糸口になるはずだ。ただし，その一覧表（当該教科書で「表 5-1-1」）の種配列は規則性（分類，分布，生態面など）がないので，受講者は理解し易いように再構成する必要がある。たとえば，哺乳類では分類体系に準じ，かつ分布状況なども追記すると表2のようになろう。鳥類一覧表ではスズメ目種群の中に，タカ目やカモ目などの他目の種が挟まり，やはり分類体系を反映していない。実際，教科書本文 513 頁でも救護活動では鳥類図

鑑は必携で，これを使うためにも系統分類の知識が必要と述べられているので，是非，整理してみよう。なお，ここで紹介された鳥種は資格試験で課せられる可能性が高いので，まんべんなく記憶することは必須であることは否定しないが，オナガやジョウビタキなどは関東圏を代表する種が気になる。国家試験では，首都近郊の動物相を反映してしまうのは仕方がないとしても，動物看護師となって他地域の動物病院に勤務した場合，当該の場所で普通の種となるものは必ず押さえないとイケない。

## ■まとめ

動物看護師は動物のケアのみならず，飼い主への丁寧な説明や（亡くなった場合の）寄り添い（グリーフケア），さらに動物療法（ケアの対象が人）まで，対人間・社会への接し方は，（疾病ある

いはその原因に専念する) 獣医師の場合よりも濃厚である(浅川・内田, 2018)。このような背景を鑑みると, 動物看護学コアカリ野生動物学は, たとえば, 駆除や救護など一般の人々と密接に関わる身近な種の明示だけを一瞥しただけでも, 実践的内容であることが判った。特に, 理論重視の形而上学的な印象を醸し出す獣医学の同名科目(浅川, 2019)と比較した場合, より鮮明にその差異が際立った。より実践的知識を求める獣医学徒は, 共用試験を乗り越えた後にでも, じっくり動物看護学の教科書も読み込んで如何であろうか。

#### 引用文献

浅川満彦. 2019. コアカリ「野生動物学」現行教育内容に関し

ての検討事項. *Zoo and Wildlife News* (日本野生動物医学会ニュースレター) (48) : 9-11.

浅川満彦, 内田明彦. 2018. 「新しい学問としての動物看護学」の趣旨説明. *生物科学* 69 (2): 66.

日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会 編. 2019. 認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 応用動物看護学 3 改訂新版, 568pp, インターズー, 東京.

日本哺乳類学会種名・標本検討委員会, 2003. 哺乳類の高次分類群および分類階級の日本語名称の提案について. *哺乳類科学* 43: 127-134.